

ロレーン・モラー女史 来日記念東京講演会

“女性マソンランナーとしての人生の走り方”

来る8月30日に開催される『2009 北海道マソン』出場のため、1992 バルセロナオリンピック女子マソン銅メダリスト、ロレーン・モラー女史(ニュージーランド)が来日します。この機会に、モラー氏の来日記念東京講演会を下記日程で開催いたします。

講演では、モラー女史のマソン人生と、現役引退後のNGO「ハート・オブ・ゴールド」活動から得た社会貢献の心などについて「女性マソンランナーとしての人生の走り方」をテーマにお話しいただきます。

多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

記

【主催】 「ランニングの世界」友の会

【協賛】 日清ファルマ株式会社 ウィグライ

【後援】 NPO 法人 日本市民スポーツ海外交流協会

【日時】 2009年8月31日(月) 午後6時～(受付5時半～)

【場所】 日本大学経済学部7号館(東京都千代田区三崎町三崎町2-8)

JR 総武線水道橋駅東口、または都営三田線水道橋駅 A2 出口より、徒歩3分

【講演者】 **ロレーン・モラー女史**(バルセロナ五輪女子マソン銅メダリスト)

【通訳】 橋爪伸也氏(Lidiard Foundation)

【参加費】 1,000円(学生500円)

【申込先】 「ランニングの世界」友の会代表 山西哲郎まで

(TEL/FAX) 027-233-6365 (E-mail) yamanishi@lion.ocn.ne.jp

講演者紹介

ロレーン・モラー(Lorraine Moller)



1955年6月1日生。ニュージーランドの元女子長距離走・マソン選手。1992年バルセロナ五輪女子マソンの銅メダリスト。大阪国際女子マソンでは3回優勝。北海道マソンでも1989年8月(2時間36分39秒)と、1991年8月(2時間33分20秒)に合計2回の優勝を果たす。NZの名コーチ、アーサー・リディアード氏の門下生。アトランタオリンピックにも41歳で出走(46位、2時間42分21秒)。ロサンゼルス、ソウル、バルセロナ、アトランタの4大会連続のNZ五輪女子マソン代表選手である。現在、一児の母。NGO「ハート・オブ・ゴールド」副代表理事も努め、本組織の名付け親でもある。

ハート・オブ・ゴールド(Hearts of Gold、略称HG)

対人地雷被災者救済などを目的に1996年12月にカンボジアで行われたアンコールワット国際ハーフマソンに関わった人々により、「スポーツを通じて希望と勇気をわかちあう」ことを目指し、2年間の準備の後、1998年(平成10年)10月10日に有森裕子さんを中心に設立された。2001年3月に岡山県よりNPO法人認定を受け、特定非営利活動法人として活動中。2005年にカンボジア教育青年スポーツ省とカンボジアオリンピック委員会より表彰を受ける。

困難に直面している人たちに、やさしさを・・・

1998年10月10日



ハート・オブ・ゴールド副代表理事
ローレン・モラー女史

“金メダルは心のシンボルです”

私はこれまで、同時代の選手達と同様、オリンピックの金メダルをめざし、興奮に充ちた人生を送ってこれてきました。また、同時に各地を旅行できる喜びや名声、成功にも恵まれました。こうした競技生活をつづけたマラソン選手はよく、あれだけ走りつづけてきて、第一線を去った後は何を考えますかと、人に聞かれることがあります。私もまた同じ質問をされ、金メダル獲得の意味や、なぜあれほど選手が金メダルに必死になるのか、また金メダルを獲得したとき、世間が拍手喝采するのか、考えました。

その答えとして、私はいま、金メダルというのは、人の心のシンボル、人に寄せるやさしさだと信じています。人の価値を決めるのは、人生で何を達成したか、ということではないでしょう。だれしも、利己的なところがありますし、自分がやったことを自画自賛しがちです。しかし、ゲームが終わって、メダルを磨く以外にできないことがないとしたら…金メダルも馬鹿げていると思います。名声も同じく、人の役に立たないなら、一時的な価値しかありません。そうした意味で、有森裕子さんの NGO、「ハート・オブ・ゴールド」に私が参加できることは、非常に誇らしく思っています。

これまで、私はオリンピックで有森さんと走ってきましたが、実に立派な卓越したランナーでした。しかし、私が裕子さんを真に賞賛するのは、ランナーの域を越えた点にあります。それは、私が彼女の中に、めったにない美しい社会貢献のハートを目のあたりにしたためです。彼女こそ、心の金メダリストの生けるサンプルで、この NGO 組織の指導者は裕子さんを除いては考えられません。

私と裕子さんはともにモンゴルやカンボジアを訪問しました。モンゴルでは、何千ものホームレスの子供たちを見ました。経済革命の歪みから、両親に捨てられ、あったかい家庭や父母の愛、保護という、生まれながらの権利を奪われた子供たちです。

一方、カンボジアでは、義足を求めて病院の前に群をなす人達を見ました。テロのために障がい者となったこの人たちは、裕子さんや私のように走れることは決してないでしょう。この世界は、まぎれもなく、困難に直面していますが、その解決を人任せにしておいてはいけません。

実際、世界の問題を解決できないにしても、一人一人が人間として行動すれば、少しは役に立つことはできるはずで、私達は、単に、白人とかアジア人、欧亜の混血、アフリカ人、インド人ではないんだという考え方をすべき時を迎えています。私達は共通の遺産をもち、共通の未来を持つ人類だと認識すべきです。よしんば、イデオロギーが違って、共通の心さえもっていれば、問題ではないのです。

私や裕子さんはこれからも、モンゴルの浮浪児やカンボジアの地雷被害者の側を離れることはできません。彼らも私たちと同じ人間なのですから。

誰でも、金メダルを得ることはできます。それを、求めようとする心さえあれば。

どうか皆さんもこの NGO に参加してください。

ローレン・モラー女史 紹介

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

ローレン・モラー (Lorraine Moller、[1955年6月1日](#) -) は、[ニュージーランド](#)の元女子[長距離走](#)・[マラソン](#)選手である。[1992年バルセロナオリンピック](#)女子マラソンの銅メダリスト。[大阪国際女子マラソン](#)へは過去に何度も出走、優勝を合計3回果たしており、大阪ではお馴染みのマラソンランナーである。

1984年8月、女子マラソンで初めて五輪の正式種目となった[ロサンゼルスオリンピック](#)に出走したが、惜しくも五輪メダル獲得には届かず5位入賞 (ゴールタイムは2時間28分34秒) に留まった。

1986年1月、[大阪国際女子マラソン](#)で海外招待選手として出走、2位の[浅井えり子](#)を4分以上の大差をつける圧勝で同大会初優勝 (2時間30分24秒) 。1987年1月、2年連続の大阪国際女子マラソンでは、2位の[リサ・マーチン](#) ([オーストラリア](#)) と3位の[原美佐子](#)らと競り合うが終盤スパートして優勝、大会初の2連覇を果たした (2時間30分40秒) 。

1988年1月、大阪国際女子マラソンで史上初の3連覇が期待されたが、レース当日体調不良のため欠場。同年9月の[ソウルオリンピック](#)ではメダル・入賞争いに加われず、33位 (2時間37分52秒) に終わった。

しかし1989年1月、大阪国際女子マラソンではソウル五輪金メダリストの[ロザ・モタ](#) ([ポルトガル](#)) らを破り、当時最多記録となる通算3回目の優勝を果たした (2時間30分21秒)。なお現在は[カトリン・ドーレ](#) ([ドイツ](#)) の通算4回)。また[北海道マラソン](#)でも1989年8月 (2時間36分39秒) と、1991年8月 (2時間33分20秒) に合計2回の優勝を果たしている。

1992年8月、酷暑の[バルセロナオリンピック](#)に出走、優勝の[ワレンティナ・エゴロワ](#) ([ロシア](#)、当時EUN) 、2位の[有森裕子](#)に続いて3位入賞を果たし、見事[銅メダル](#)を獲得 (2時間33分59秒) 。なお37歳での五輪メダル獲得は、女子マラソン選手史上当時の最高齢記録であった (現在は2008年8月の[北京オリンピック](#)金メダリスト、[コンスタンティナ・トメスク](#) ([ルーマニア](#)) の38歳) 。

翌1993年1月、大阪国際女子マラソンに出走するが、5位に留まった (2時間30分31秒) 。1996年7月の[アトランタオリンピック](#)にも41歳で出走 (46位、2時間42分21秒) 、4大会連続の五輪女子マラソン代表選手となった。

現在、[ハート・オブ・ゴールド](#)の副代表理事を務めている。名付け親はモラー本人であり、代表理事は有森裕子。